

土木森林環境委員会 県内調査活動状況

1 日 時 平成25年7月24日(水)

2 出席委員(7名)

委員長 山田 一功

副委員長 永井 学

委員 高野 剛 浅川 力三 望月 勝 保延 実 齋藤 公夫

欠席委員 樋口 雄一 安本 美紀

地元議員 なし

3 調査先及び調査内容

(1) 【山梨県道路公社】

調査内容(主な質疑)

(問) 特別損失の有形固定資産売却損の内容は。

(答) 先ほど、視察で見てもらった富士山5合目トイレを県へ移管したことによる。道路を管理する施設は、道路公社の資産としているが、道路施設については、山梨県の所有となる。

(問) 過年度損益修正益を計上しているが、誰の指摘によるものか。

(答) 県の定例監査で指摘を受けたことによる。



富士山5合目において、富士山5合目トイレの概要説明を受けた後、現地視察を行いながら、質疑を行った。その後、富士ビジターセンターにおいて、経営状況の概要説明を受けた後、質疑を行った

(2) 【(公財)山梨県林業公社】

調査内容(主な質疑)

(問) 林業公社が金川の森の指定管理者となっているが、今年度までとの説明があった。その後の管理運営については、どのように考えているのか。

(答) 金川の森等の森林公園について、次期指定管理のための事業概要の説明を現在、行っている。ことし中に指定管理者を決め、来年の4月1日から新たな指定管理者のもとで管理をしてもらう予定である。

(問) 指定管理者は公募なのか。

(答) 現在、管理する施設等の概要についてホームページ等で公表しており、公募で8月半ばから正式な受付を行う。

(問) 公園管理の経営状態についてであるが、公園単独で経営できる状況なのか。

(答) 昨年度の決算であるが、県からの受託料が7,300万円余、それ以外の収入として、貸し自転車料やターゲットボードゴルフ場の利用料などが560万円余、自動販売機の手数料が200万円余あり、金川の森の全体収入が8,200万円余となる。

一方、支出は職員の人件費が2,800万円余、公園の芝生などの管理費が3,300万円余、施設修繕、事務費などが2,000万円余となっている。そのため、昨年度の決算では、23万円余の黒字となっている。

(問) 林業公社としては、次の指定管理には応募しないとの理解でよいのか。

(答) 改革プランでは、平成29年3月に解散することになっているため、解散以降まで指定期間のあるものについては、応募できない。現在、指定を受けているものについては、一生懸命取り組むが、次期の指定管理については、応募しないこととしている。

(問) 今まで指定管理を受け、取り組んできた中でどのような課題があり、また、今後、地域のひとたちにより一層親しまれるためには、どのように取り組んでもらいたいと考えているのか。

(答) 森林公園ではあるが、平地にある公園なので、子供からお年寄りまでいろいろな方が来られるため、これまでの受託方針は、安全に森林を楽しんでいただくこ

とをモットーにしてきた。

また、地域に親しまれる公園とするため、公園巡視員の方は地区の住民の方にお願いをしており、さらに地区の住民や企業に応援サポーターにもなっている。

そのほかに、スポーツの森にはカート乗り場があり、そこでは交通安全思想の普及を大きなテーマとして取り組んできた。

公社としては、このような取り組みを続けてもらいたいとの希望がある。

(問) 指定管理を受けるほうにも、若干のメリットがなければ受けるところはないと思う。今後も、金川の森で指定管理を続けるためには、今以上に必要なことがあるのか。

また、より活況ある施設とするために、新たな施設整備が必要と考えているのか。

(答) 施設整備は昨年度まで行われ、新たな施設としてかぶと虫の森にカブトムシの捕獲体験ができる生き物観察施設を設置してもらった。

また、より公園内を快適に巡回してもらえるように、電動アシスト付き自転車も導入してもらった。これらを活用することで、より使い勝手のよい公園となると考えている。自然と親しむ公園としては、これ以上の新たな施設整備についての必要性は感じていない。

(問) 金川の森の受託料は年間約7,300万円との説明があったが、指定管理期間の5年間では約3億6,000万円余となる。先ほどの答弁で23万円の黒字との発言があったが、受託事業で、黒字との発言はおかしいのではないか。

(答) 平成21年度から25年までの5年間の受託期間の総額は3億7,100万円となっている。指定管理者の契約は、毎年度金額が決められており、その範囲内で管理運営することとなっている。

公社としては、経費の一部を人件費に積み立てる部分もあるため、経費をできる限り切り詰め、欠損とならないように事業を進めている。

(問) 林務では、財政状況が厳しいとの認識のもとで分収林割合の変更や緑化センターの廃止など経費の節減に努めているはずだ。金川の森の受託料が年間7,300万円という金額であれば、どこでも受託可能なのではないか。次期、指定管理の受託料はこの金額をいかに削減させるのかを検討すべきではないのか。

(答) 委員指摘のとおり、指定管理導入の目的の1つに経費の削減がある。次期指定管理者の募集に際しても、県民の皆さんが楽しめる施設をいかに実現させるかとの提案をいただき、その中でよりよいものを選定していくことを考えている。

(問) 今の林務の状況は、「県民の皆さんが楽しめる施設となるように」と言っているような状況にないと思う。もっと真剣に受託料を下げる方向を検討すべきではないのか。次期指定管理についても今年度並みの金額を予定しているのか。

(答)あくまでも予定価格では、今年度並みの金額を提示し、実際に応募してもらう方にどれくらいの費用がかかるかを提案していただき、審査をしていくことになる。

(問)県では、今年度並みの金額であれば予算的に大丈夫と考えているようだが、林務の今の財政を考えると5年間で3億7,000万円もの費用を出せる状況にないと思う。先ほどの答弁で、その他の収入約700万円を含めると、23万円の黒字との話があったが、黒字という発言に違和感を覚える。次期指定管理者には、県民の皆さんが楽しめる施設との答弁の前に、受託料を下げた管理運営できる手法を検討すべきではないか。

(答)委員指摘のとおり、指定管理によって効率的に管理運営するということは、大変、重要な視点であると考えます。一方で、金川の森は公園であり、全ての県民に開かれた施設であるため、施設の利用水準を落とさないということも重要な視点である。そのため、両方を総合的に審査して次期管理者を選定していきたいと考えています。

(問)全ての県民との答弁だが、南部や大月の方が来るとは考えづらいので、地域にあった公園を目指すべきではないのか。林務の置かれた状況を認識し、フラワーセンターのように新たな提案も受け入れる中で、前向きに取り組んでもらいたい。

(答)林務が県民に新たな負担をいただき、施策を実施していることを認識し、財政状況の改善を図るべきだとの委員の指摘を踏まえ、次期、指定管理者の選定にあたっては、効率的な運営を実施するために、どのような建設的な提案がされるのかを見極め、審査していきたい。

(問)指定管理にするということは、経費の節減を目的としているはずである。指定管理とする前の管理費はどのくらいだったのか。

(答)指定管理前は1億数百万円程度の管理費であったが、指定管理後は、7,300万円程度となっている。

(問)指定管理の募集時には、何社の応募があり、林業公社からはどのような提案があったのか。

(答)今まで、2期連続で林業公社が受託しているが、1期目は複数の申し込みがあり、審査の結果、林業公社となっている。

(問)林業公社の提案のほうが安く請け負うことができるということで、受託したとの理解で良いか。

(答)選定に当たっては、検討委員会において受託内容と受託料を総合的に判断して

いる。現在、手もとに詳細な資料がないため、金額等については、後日、提出させてもらう。

(問) もう1度確認であるが、指定管理を受ける前は1億数百万円かかっていたということで良いか。

(答) 平成18年度から指定管理となったが、それ以前は平均で1億300万円程度となっている。

(問) 1億300万円程度かかっていたものが指定管理とすることで、7,300万円程度になったとのこと。次期、指定管理においては、提案型で7,300万円よりも低い金額で応募があれば、そこを指定管理としたいとの理解でよいか。

(答) 来月から公募が始まるが、事業内容と金額を総合的に判断し、指定管理者を選定することとなる。新たな施設も設置され、収入に含めることができる施設もふえているため、金額においては、下がる可能性もあるのではないかと予想している。

(問) 分収林割合の契約変更についてだが、林業公社解散の平成29年3月までに、現在のペースで3,377件の契約変更は終了できると考えているのか。

(答) 先週末までの進捗状況が30.2%、1,021件の契約済みとなっている。今年度は1,000件の変更契約締結を目標とし、県と連携して取り組んでおり、現時点では、目標を達成できるスピードで実施できている。3年目については、今年度の実績に基づき、計画を作成するが、高い数値を目標とした計画を作成し、4,5年目については、問題のある残った契約案件について取り組み、解散までに全部の変更契約ができるように取り組んでいきたい。

(問) まだ2,000件以上の契約が残っている。説明会や戸別訪問を頻繁に行っているようだが、目標を達成できるように、これからも鋭意取り組んでいてもらいたい。

(答) 平成29年3月までのできるだけ早い時期での全ての契約変更に向けて、変更契約の趣旨や内容をわかりやすく丁寧に説明し、理解が得られるよう一生懸命取り組んでいきたい。



森林公園金川の森において、（公財）山梨県林業公社の経営状況の概要説明を受けた後、質疑を行った。

以 上